

2.8.2.5 移設候補地の選定経緯

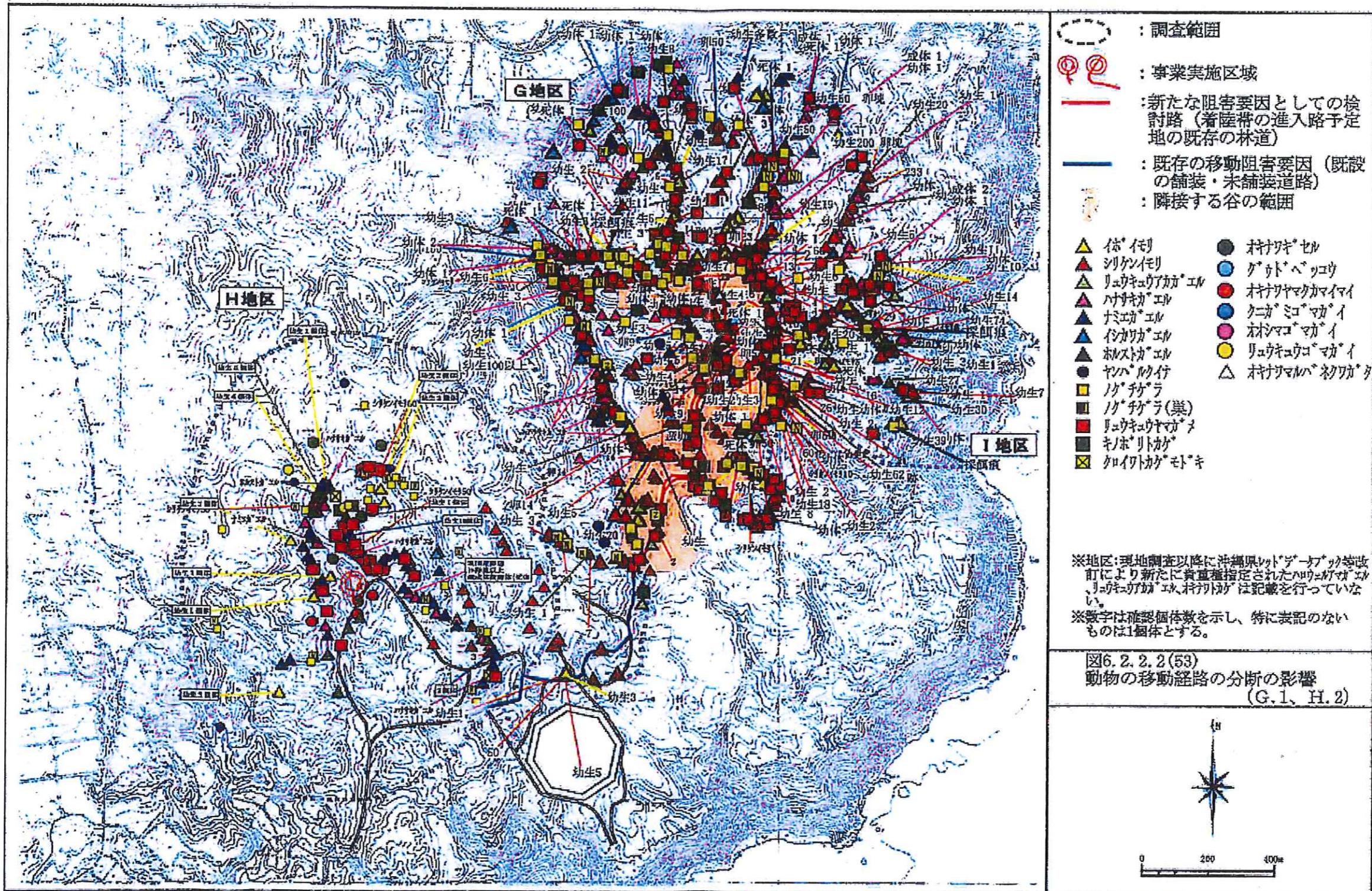
米軍調整前の選定結果であった9地区11ヶ所から、現地調査結果や既存の知見等に基づき作成した好適性区分図に基づき、自然度が豊かなN-5地区及び風衝植生が発達した1地区（図2.8.40、図2.8.43）及び米軍との調整により、N-2、N-3、N-6地区を除外し、図2.8.32に示す4地区6ヶ所を選定しました。

なお、環境影響評価に基づく大気質、騒音、振動、低周波音等について予測・評価を行った結果、着陸帯が周辺地域の集落に多大な影響を及ぼすおそれのない範囲内に配置されており、周辺地域の生活環境へ著しい影響を及ぼすことないと評価しました。

候補地	選定理由
N-1	<u>米軍の運用上において、複数機によるヘリコプターの使用も含めた訓練の支援用として2ヶ所を移設候補地として選定しました。</u>
N-4	<u>米軍の運用上の要望もあり、既設着陸帯の区域であることから、環境への影響を少なくするため、地形の改変面積も極小化して設置することとし、既設ヘリコプター着陸帯内に着陸帯を2ヶ所整備することとした。</u> <u>(3機の離発着訓練が可能になり、文言とは逆に、住民に著しい騒音影響)</u> なお、集落に最も近い地区であるが、既設着陸帯区域に設置されることや当該事業の実施により訓練形態等に変更はないものと理解していることから、 <u>現状に比べ周辺地域の生活環境に著しい影響を及ぼすことはないものと判断しました。(既に運用されたN4の影響で高江住民に多大な被害)</u>
G	<u>米軍から運用上、特に新規提供された水域における訓練も含め訓練及び兵士の救助を支援する目的で必ず必要との強い要望があり、日本側は専門家の現地踏査による意見等を踏まえ、より自然環境に与える影響が少なくなるよう米軍と調整し、当初米軍要望の着陸帯2ヶ所を1ヶ所の着陸帯とし着陸帯の造成規模を縮小するとともに、進入路を既存の林道を利用しつつ未舗装あるいは砂利舗装等、環境影響を最小限に止める構造とすることとし、1ヶ所を移設候補地として選定しました。</u>
H	<u>米軍の運用上の要望もあり、他の移設候補地と比べて環境影響が小さいことから、1ヶ所を移設候補地として選定しました。</u>

「2007年那覇防衛局アセス」のヘリパッド選定理由
もっぱら、米軍運用が選定理由だ。

G、H 地区、特に G 地区には多数の希少種が生息



平成29年4月13日 参議院 外交防衛委員会 沖縄の風 伊波洋一
出典:「北部訓練場ヘリコプター着陸帯移設事業(仮称)環境影響評価図書」(平成19年2月那覇防衛施設局)より
伊波洋一事務所作成

G、H 地区、ヘリコプターの影響範囲とノグチゲラの行動範囲

